

令和6年3月28日

北海道教育委員会教育長 様

北海道札幌英藍高等学校長

次のとおり令和5年度の学校評価について報告します。

1 本年度の重点目標

「生徒、教職員共に、主体的に行動する力を育み、発揮しよう。」 理念から実践へ～理念や目標を具現化するため、具体的な教育活動の工夫・改善・充実を図りながら着実に実践する。

2 自己評価結果・学校関係者評価結果の概要と今後の改善方策

評価項目	自己評価の結果	学校関係者評価の結果
学習指導	観点別による評価と指導の一体化が浸透し、主体的・対話的で深い学びの実践が概ね達成できている。ICT端末の活用は教員間でリテラシーに差があるが、互いに教え合いながら高めている。	教員が自らの資質能力を高めるために研修を受講することがとても重要である。管理職からの受講奨励と、研修報告のフィードバックが有効である。
改善方策	管理職の面談による受講奨励を積極的に推進していく。各種研修会だけでなくオンラインでの研修や講義を有効活用しながら、教員個々の資質・能力の向上を図っていく。	
生徒指導	生徒指導提要の改訂にあたり、体罰のみならず不適切な指導をしないことを留意している。 業務の多忙さから、生徒の話に耳を傾ける時間が十分に確保されていない。	校則のあり方や運用について時代に沿ったものに対応していただきたい。柔軟性をもった指導で対応していただきたい。
改善方策	生徒会、PTA、教職員を交えた三者協議を実施し意見交換を行ったが、次年度以降も継続的に実施し、信頼関係の構築を深化させる。 生徒と向き合うために面談週間を年間計画に回数を増やして組み込むと共に、その時間確保のための働き方改革を推進していく。	
進路指導	例年、生徒の進路希望は幅広いものがあるが、進学を希望する割合が増える傾向にある。 社会でアウトプットする力が求められているが、生徒にプレゼンテーション能力をつけさせる指導を多くの教員ができるようにしなければならない。	生徒の出口の確保が生徒募集に直結していく。生徒に対して丁寧に親身になって対応していただいているようで感謝している。
改善方策	進路ガイダンスの実施し、幅広い視野を持ち、自らのキャリアを深く考えさせる指導を継続していく。 面談週間の中で生徒の進路希望に耳を傾けながら、将来の夢や希望の達成への後押しをしていく。	
公表方法	学校WebページやPTA役員会など各種会議、懇親会などにおいて説明し、広く公表する。	